

宇垣一成 軍人政治家。優れた識見と行動力で陸軍整備や国家総動員体制を進めるが、軍部独走に抵抗して失脚。

うがきかずしげ

明治維新・1868 = 備前国瀨瀬村(岡山県瀬戸町)で百姓の五男に生まれる。

明治6年政変 1873 = 5歳 :

西南戦争・1877 = **9歳** :

明治14年政変 1881 = 13歳 :

小学校卒業後、代用教員となり、

秩父事件・1884 = 16歳 : 若年にして隣村の小学校長になったが、

帝国大学始・1886 = **18歳** : 軍人を志して上京。

初の対等条約 1888 = 20歳 : 陸軍士官学校(1期)に入り、

帝国憲法発布 1889 = 21歳 :

帝国議会始・1890 = 22歳 : 卒業。

日清戦争始・1894 = 26歳 :

日清戦争終・1895 = **27歳** :

ビアノ国産化・1900 = 32歳 : 陸軍大学校卒。

教科書疑獄・1902 = 34歳 : 参謀本部部員(大尉)としてドイツ留学を命じられる。この年から日記が始まる。

日露戦争始・1904 = **36歳** : 帰国し、日露戦争に第八師団の参謀として出征、

日露戦争終・1905 = 37歳 :

満鉄発足・1906 = 38歳 : 駐在武官として、再びドイツに赴任、

アライ 創刊・1908 = 40歳 : 帰国後、参謀本部総務部部員を経て、

大逆事件判決 1911 = 43歳 : 陸軍省軍事課長となると、

明治天皇没・1912 = 44歳 :

大正政変・1913 = **45歳** : *山本権兵衛内閣の時に実施された陸軍大臣現役武官制の廃止に反対して画策し、左遷される。

21ヶ条要求・1915 = 47歳 : 軍事課長に復帰し、大隈内閣岡陸相のもと二個師団増設に奔走、少将・陸軍歩兵学校長となる。

民本主義・1916 = 48歳 : 参謀本部第一部長、

本格政党内閣 1918 = 50歳 : 陸軍軍事協約委員の一人として訪中し、日華陸軍共同防敵協定締結を実現。

アライ 創刊・1919 = 51歳 : 陸軍大学校長、中将、

原敬首相暗殺 1921 = 53歳 : 第十師団長、

水平社結成・1922 = **54歳** : 教育總監部本部長を経て、

護憲三派圧勝 1924 = 56歳 : *田中義一の推挙により清浦奎吾内閣の陸相に就任、つづく加藤高明内閣で留任し、

治安維持法・1925 = 57歳 : 4個師団の廃止を中心とした宇垣軍縮を断行。軍縮を求める世論の矛先をかわしつつ節減した予算によって陸軍装備の近代化を推進し、さらに青年訓練所の設置や学校教練の実施、

日本時代始・1926 = 58歳 : 若槻礼次郎内閣にも陸相として留任、

金融恐慌・1927 = 59歳 : 徴兵令を改正して兵役法として、国家総動員体制の整備をすすめる。

世界恐慌・1929 = 61歳 : 浜口雄幸内閣でも陸相となって陸軍の実権をにぎり、

満州事変・1931 = **63歳** : *三月事件にも黒幕として関与し、事件後辞職して朝鮮総督に就任。

二二六事件・1936 = 68歳 : 朝鮮総督を辞任。

日中戦争始・1937 = 69歳 : 広田弘毅内閣の総辞職にともない組閣の命をうけたが、その政治力を忌避した陸軍中堅幹部の激しい反対にあい組閣を断念する。

健保+総動員 1938 = 70歳 : 近衛文麿内閣の外相となって、戦争の長期化による国力の消耗を防ぐ立場から対中国和平工作をすすめたが、対支中央機関設置問題で軍部と対立して辞任。

大政翼賛会・1940 = **72歳** :

日米開戦・1941 = 73歳 :

吉田茂が執拗に宇垣首班擁立工作をするも、以後閑居を続け、

年金+総武装 1944 = 76歳 : 中国に渡り、私的な立場から和平工作を行い、

敗戦・1945 = 77歳 : 敗戦後、公職追放となったが、

極東裁判判決・1948 = 80歳 : 首席検事ジョセフ・キーナンから日本の真の平和愛好者4人の一人としてパーティに招待され、

三大事件・1949 = **81歳** :

メデー事件・1952 = 82歳 : 解除されると、

TV放送始・1953 = 85歳 : 参議院議員に全国区最高点で当選し、

国連加盟・1956 = 88歳 : 没した。

「宇垣一成日記」全3巻は史料としても重要といわれる。

中公新書「宇垣一成」、「日本史重要人物101」、「没年日本史人物事典」、「日本の群像」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、